

2020

Vol.032

公益社団法人 つくば市シルバー人材センター  
健康で 楽しく 幸せに

# きずな

新体制のトップ二人  
大胆に行動し、発言します！  
コロナ特集  
女性会員たちの活動  
地区の活動レポート  
令和元年の事業総括

## 〈新体制のトップ二人〉 大胆に行動し、発言します！

新型コロナウイルス感染症騒ぎの中、この難しい舵取りを託された、尾台昌治理事長と成島和子副理事長は、タイトル通りの有言実行の人柄であり、決意と行動を期待して、本音に切り込んでみました。



### 〈二人の略歴と、これまでの活動〉

**尾台昌治** 昭和二十年長野県生まれ、75才、実家は野菜作りの農家。入会8年目。総務、広報。理事二期目。現農研機構勤務のあと、タイで乳牛飼育の研究、退職後パラグアイで牛乳生産量

の改善指導のボランティア活動に従事。

**成島和子** 茨城県つくばみらい市生まれ。入会九年目。広報、女性活躍委員会。理事二期目。取手市内にある大手飲料メーカーの社員として、勤務。その後営業職、外回りなどで活躍し、これが人生経験で大いに役立った。毎週月曜日、水戸へ高速で車を飛ばして会議に出席。仕事で必要なパソコン教室に通い、様々な資格取得。行動派。「ヤル気ニナレバナナンデモデキル」が Motto。

### 〈センターが果たしてきた社会的意義とは？〉

**(尾)** 高齢者が自ら働くことができる組織である。賃金も得て、地域貢献ができる。それに健康のためにもなり、生きがいづくりにもつながる。シルバーのような組織の下で仕事をするこ

とによって、高齢者の生きがいの場につながっている。  
**(成)** 高齢者がその時々に分がでる仕事や労働を通して、社会との結びつきを実感し、能力が低下したとしても、過去の経験を生かして働く事で社会とのつながりができる。仕事を通じて生きがいや喜び、楽しみが得られる

のでは!!

**(尾)** もっと広く一般に知ってもらうことも必要になってくる。メディア（ラジオ、たとえばFMつくば放送の利

用などもある。  
**(成)** 紙の媒体だけでは限度がある。センターのPRの方法をあらゆる角度から検討すべき。

### 〈センターの良いところ？足りないところ？〉

**(尾)** ここまでセンターが発展してきた。ただし、自主自立の精神はどうか、役員のなり手が少ないというのも問題。自分たちの組織であるという意識が必要。後継者問題が、センターの中にも、事務局にもある。将来性に関係してくる。

**(成)** 小物作りに2年半参加して、皆さんが生き生きと楽しく過ごしているように感じます。参加してくれた人達にイベントのいろいろなお手伝いをして頂きました。定期的に集まる事で仲間意識もでき良い方向に進めるのだと思います。

**(尾)** 地域とのかかわりが薄いといった特殊性がつくば市にはまだ存在する。地域差をなくして協力し合う手立てを探ることも重要です。

### 〈これからセンターの方向は？〉

(尾) 事業形態が委任から派遣に切り替わった。委任の場合、五年という縛りがあった、あとを他の会員が埋めることができた。しかし派遣では、五年の縛りがなくなり、就業交代がなくなるので、何らかの改善が求められる。就業開拓やワークシェアリングなどの活用などによって会員の就業機会を増やす必要があります。

(成) 就業開拓を進めながら、このコロナ時代を乗り切ることが大切。

### 〈女性の活動をどう展開するのか？〉

(成) 入会説明会の創意工夫の実施、成功例としては、桜地区で、女性だけの本音を聞きながら相談に乗り、そのことよって入会にこぎつけたことがある。ただコロナ禍では、女性の方が男性よりも重大に受け止め、高齢者が集まるセンターへは用心するし、慎重になるので、会合の開催も難しい。女性の活動が活発で、高齢者でも仕事をやっている狛江市のセンターが好例になると思います。

(尾) 新しいことに挑戦し、自分たちで積極的に手を打つことを考えないと、いまの状態を乗り越えることができないのではないか。

### 〈センター運営で実務的に要となる事務局の態勢は改革が必要では？〉

(尾) ベテラン職員の退職を機会に事務局の体制をどうするのか。事務局内部でまず話し合っていくことが必要。請負・委任事業から派遣事業に移行しています。就業機会を確保するために就業開拓をどうすすめるかが大きな課題となり、事務局との連携がより大切になると考えます。また、新しい人材をうまく育てていくための環境づくりも求められます。

また、理事に対する特別な手当がなく、費用弁償として30000円が支払われているだけである。責任と重大な責務を負う理事がこのままでよいのか早急に検討しなければ、役員のなり手がなくなる。会員が外から入ってきたときの事務局の雰囲気、つまり挨拶や声をかける気配りが少ないという指摘もあり、みんなで相談して改善していきたい。給与面では、ベテランと新職員の給与差に問題がある。難しいがなんとか解決したい。

(成) やり方によっては、ここは非常におもしろい職場になると思うのだが。会員あつての事務局、押しつけるわけではないが、会員みんなは見ている。

情報共有することに欠けているのも問題。みんなに知らせて、情報を持ち合うことが必要。事務局長が一年かせいぜい二年で交代することにも問題がある。

(尾) とにかく責任の自覚が重要。問題の一つが就業なので、毎月第一と第三木曜日の午前十時から午前中、大穂庁舎で就業相談を行っている。相談は、尾台か成島のどちらかがうけたまわっている。

(成) 会員への配慮が少ない。それが職員の仕事であるという認識が薄い。仕事がなくとも、時期を見て、電話の一本でも会員に入れて、状況を伝えるとか、そういう気の配り方が大事ではないか。そういう気の配りが会員をセンターに引きつけておくことになる。定期的な職員の研修も必要ではないだろうか。

(尾) 事務局の入り口前にあった目安箱を活用したい。会員が仕事のこと、困っていることや、疑問に思っていることなどを、公平、情報共有、責任をキーワードにして、取り上げていきたい。

(成) 会員みんなの声を、公平に吸い上げたい。

かねてセンター運営の要である事務局改革の必要性が認識されながら、なかなか進んでいないように見えます。たぶんこれまで正面切ってこの課題に取り組んだことは、おそらくなかったでしょう。お二人のこれからの行動に注目したい。なお附言として、公平な情報のオープン化も付け加えておきます。現状では未だ不十分と思われる。広報委員…大塚、山内

### ◆やまびこ◆

コロナ禍で閉塞感が漂う日本には、課題が山積みです。深刻な社会問題だが未だ決定的な解決策が見つからない。貧困と格差。休業者や非正規雇用の増加。経済的に困窮している大学生たちの増加。これら弱者の救済が、日本の復活につながります。この難局打開に、新しく誕生した国のトップリーダーに期待大！  
指揮官先頭、単縦陣

### 〈コロナ特集〉

#### 〈北条米を栽培する農家の困惑〉

つくばブランド・北条米を大規模に栽培している農家にコロナウイルスの影響を聞きました。

「まもなく今年の水稲収穫期、去年のコメが冷蔵庫に売れないで大量に残っている。主に、個人や企業の食堂に卸しているが、ここ数か月は食堂の休みで全く売れない。今年のコメの収納場所の確保にも頭を痛め、途方に暮れている。せめてつくばに「道の駅」でもあれば何とかなるかもしれないが、ないので無理、困った、ただただ、コロナ禍の収束を祈るばかり。また、7月の長雨と8月の猛暑で稲の結実が悪く、品質も心配だ。大豆は播種も遅れ、収穫は皆無。非常に深刻な状態です。」  
(文責 尾台)

#### 〈あるケアマネージャの奮戦記〉

##### コロナVS高齢者とその家族

高齢者とその家族にとって大切な存在の一つが、介護施設のケアマネージャですが、見えない苦勞も多いと聞きます。市内のある介護施設で対コロナに奮闘中の女性ケアマネージャの方が、思いを語ってくれました。

「私はケアマネージャとして、高齢の利用者（介護サービスを受ける人）の方々と接しています。いま最も重要な対処法は、利用者とその家族を感染させない、私がコロナ媒介者にならない、恐怖や不安を抱かせてはならない

ことです。

毎月一回定期的に自宅介護の利用者を訪問し、話を聞きながら要望を汲み上げて対処していくのが日常活動です。本来はお訪ねして表情を見て、声を聞いて判断することで、対処していました。コロナ拡大のいまは、基礎疾患やガンなど感染すれば命に関わる方の場合や、家族の中に東京通勤者がいるか、東京居住者がいるかなど、利用者の状況を見つつ、家族に相談しながら、ケースバイケースで対処しています。

訪問を控えて電話で対応する場合もあります。もし訪問する場合は、ご家族に安心していただくために、家に入る前にご家族の見ている前で手指の消毒をする、マスクの二枚重ねをする、マスクを外すことになってしまいう茶菓子はいただかない、密になりそうな時は、ここを開けても良いですか？と換気するなど、とにかく利用者を感じから守るために、気がつく限りの対処をするようにしています。

例えば、九十歳を超える利用者が、自宅介護で息子さんの世話を受けていたケースでは、たまたま息子さんにガンが見つかり治療を受け始めると、親

へのコロナ感染を心配した息子さんは人との接触を断つ。私は息子さんと電話で連絡を取りながら、介護保険でのサポート、自費ヘルパーの提案、訪問診療、買い物ヘルパーなど、サポートシステム提案で対応しました。

また、認知症の高齢者は、デイサービス、シャートステイ施設の閉鎖が一番怖い。安心して入浴できることを楽しみにしている方も多い。だから閉鎖されることを大変心配するわけです。私たちとしては、万一閉鎖されるような事態があっても、代替りのサービス（訪問入浴など）提案で対応できるようにしています。

いま施設入所者への面会ができなくなっています。私が所属する施設では、家族が訪問できる部屋を設けて、Zoomで利用者とリモート対談ができるように施設を整備しています。

コロナウイルスは、人と人とのきずなを断つ疾病だと感じています。このきずなを守り、また代わりのきずなをどうやって生み出せるかが、ケアマネージャの大事な使命だと感じています。コロナに負けるわけにはいかないのです！」

## 〈女性会員たちの活動〉

### 〈躍動する女性活躍委員会〉

令和二年度の開幕は、新型コロナウイルス感染症の流行で始まりました。そのため、事業計画の実施にも大きく影響を受けました。ソーシャルディスタンスを維持しながらの協議・連携・協同作業、困難な対応の中で、持ち前の静かな粘りと笑顔の明るさで挑戦しました。女性会員拡大を目標に、女性限定入会説明会・女性会員向けセミナーの開催、各種イベント参加、ボランティア活動、小物作り等々。委員の皆さまと真剣に、時には茶菓をはさんで、検討・決定し、実施に努めてきました。今後もシニアらしいリズムで取り組んでまいります。

一例として、小物作りの活動を述べます。コロナ対処の方法として、会員の皆さまには空き時間を利用して自宅での製作、委員の皆さまには本部での製作



をしていただいています。工程の多い給食袋の代替品として、現在雑巾を製作中で、小学校等への贈呈を目標に続けているところですが。また、茎崎地区、磯部理事より提供していただいた布で、200枚の布マスクを製作、つくば市に寄贈いたしました（この後詳述）。これも、ひとえに会員の皆さまのご理解、ご協力の賜物と感謝しております。これからも、皆さまとご一緒に以前に変わらぬ、何があっても有意義に楽しく活動できることを切に願っています。

### 〈手作りマスクを寄贈〉

「お盆も帰省しないで」と移動自粛を呼びかける各地方知事、「GOTOトラベル」を喚起する政府。「一体どうち？」と戸惑うばかりです。

騒然の中、女性活躍委員会は粛々と布マスク200枚を製作し、つくば市の保健福祉部健康増進課に寄贈しました。例年であれば、



この時期は「まつりつくば2020」で販売する小物や、小学校の新入生に入学祝として贈る「巾着袋」の製作に奔走中でした。でも今年は談話室に集まることもできません。そのため「巾着袋」の製作を中断、それぞれの自宅で布マスクを作って市に寄贈することに決めました。

そして、8月3日、マスク200枚をきれいなカードを添えて包装し、高齢福祉課に届けました。女性の皆さん本当にありがとうございました。ご苦労さまでした。

## 〈地区の活動レポート〉

### 【大穂地区】

#### 〈アフリカダンス〜心と体の開放〉

10月2日（金）大穂体育館で身も心も開放するアフリカダンスを開催します。元気なシニアであるために、筋力が必要。どうしたら楽しく筋力アップできるか、みんなで考えました。つくば市の生涯学習に、アフリカダンスのかわのきくこさんを発見。彼女のHPのダンス動画は、すごく楽しく魅力的。早速約束を取り付けました。当日は、ご主人の遊唄（ゆうた）さんの

太鼓生演奏で、なんと裸足で踊るので、パワー爆発、大穂地区は若返ります。



### 【豊里地区】

#### 〈アダプト・ア・パークの開催〉

第二波到来といっても過言ではない最中に、8月2日台山公園で行いました。ソーシャル・ディスタンスには十分に留意して、14名（男9・女5名）の参加です。参加者には商品券を進呈。皆さん大喜びでした。今回は20名参加を目標に、「ガンバロー」と解散しました。その他、大穂地区・桜地区が9月6日、荃崎地区・谷田部地区が9月26日に開催しまし



た。いずれもコロナを吹き飛ばす元気さで、再会を楽しみました。

### 【筑波地区】

#### 健康交流サロンの開催

8月23日（水）市民研修センターで健康交流サロンを開催しました。10名が参加し、血圧測定・体調チェックを行った後インストラクターによるストレッチ、歌って踊る体操を行いました。自分の体力はどうなっているのか気になります。普段から健康増進に努めている会員は自信もついてニコニコでした。初めての参加者は体を動かすことの楽しさを満喫し、しかも健康増進の良いきっかけになったと話していました。永く健康でいられるように、今後も開催する予定なのでぜひご参加ください。心身を開放しリラックスして、とても体調がよくなった一日でした。



## 〈令和元年度

## センターの運営状況〉

令和元年度におけるセンター運営状

況の概要を平成30年度と比較する形式で報告します。

会員数は、入会会員が年間100人を超えています。毎年退会者の人数も多く会員の増加になっていないのが実情ですが、令和元年度は全国シニア人材センター連合会（全シ連）による会員「100万キャンペーン」によって増えています。

受注件数、契約金額、就業人員と就業率ともに平成30年度に比べ低下しています。特に就業人員と就業率の低下は大きくなっています。これは、茨城県シルバー人材センター連合会（県シ連）の指導によって施設管理などの請負・委任業務の多くが、派遣事業に移行した結果と考えます。また、移行が順調に進まず、契約打ち切りになった就業先も生じ、会員の雇用打ち切り、更に、移行によってそのまま継続雇用となり会員の交代が進まなかったことによりります。

このことから、今後、増える会員の就業先の開拓と確保が大きな課題となります。また、ワークシェアリングなどによって会員の就業の拡大を図るなど、事業全体の見直しが必要になります。

（報告・尾台）

## センター運営状況

### 会員数の動向（人）

年度	入会者数	退会者数	増減	年度末			前年比
				男性	女性	合計	
平成30年度	104	95	9	467	176	643	101%
令和元年度	125	85	36	481	198	679	106%

### 受注件数の増減

年度	受注件数（件）					前年比
	公共	企業	民間	独自事業	合計	
平成30年度	720	817	3,048	24	4,609	92.9%
令和元年度	636	706	3,024	24	4,390	95.2%

### 契約金額の増減

年度	契約金額（千円）				前年比
	配分金	材料費	事務費	合計	
平成30年度	239,783	21,525	22,693	284,001	87%
令和元年度	219,880	23,401	21,097	264,378	93%

### 就業人員と就業率

年度	就業延人数 （人）	就業実人数			就業率（%）		
		男性	女性	合計	男性	女性	合計
平成30年度	45,271	360	135	495	77.1	76.7	77.0
令和元年度	41,490	320	135	455	66.5	68.2	67.0

## 〈歴史に学ぶ〉

### 四海こんきういたし候はば

これは、幕末に大塩平八郎おしおへいはちろうが蜂起した時の檄文げきぶんの冒頭です。さらに「天祿ながくたたん、小人に國家をおさめしめば災害并至と昔の聖人深く」と続いて全二千字に及びます。やや難解ですが意は「天下が困窮したら、天の恵みも長く絶えてしまうだろう。器量の小さい人間に國を治めさせたなら、災害が次々にやってくるだろうと、昔の聖人は」。この檄文の写しが密かに各地に伝えられて、今にのこっています。当時貧しい農民や町民が困窮にあえぐ一方、徳川幕府の役人たちが一部の豪商、豪農と結びついて、己たちの利を貪ること甚だしき癒着汚職が横行していました。大坂天満生まれ、元大坂東町奉行与力大塩平八郎（1793～1837）は、これを弾劾しようとして、1837年（天保八年）二月十九日の蜂起前、人々に訴えた檄文が冒頭の文です。決起前に、城代たちの悪どい不正な金儲けの口をつかんだ平八郎が幕府に告発状を送りましたが、老中に届かず、幕府方の手に入ってしまった。さらにある門弟の密告で大

坂奉行が兵を差し向ける前に、こと露わると他の門弟から知らされた平八郎は、今はこれまでと武力蜂起を図りましたが、幕府兵にはかなわず、逃亡中のシンパの富裕な町家で、幕兵に踏み込まれる前に自爆しました。平八郎は、清廉潔白、不正を憎む能吏としてよく働きました。だが、下級官吏ゆえにそのところを得ず、養子に職を譲り、引退して私塾「洗心洞せんしんどう」で、傾倒していた陽明学をもとに門弟たちに独特の教を説いていました。彼の性格とその学問が、役人の不正に目を向けさせることになったようで、檄文にもその影響がうかがわれます。注目すべきことは、門弟だった与力同心たちや豪農たちが、彼を慕い支えていたことです。幕府は、幕藩体制二百五十年の世で、この乱が大坂の地で起きたこと、元与力とはいえ元幕府の下級管理職が蜂起したことが、主体が豪農とそれに連なる貧農や、被差別部落の人びとであったことに衝撃を受けました。蜂起時に「救民」と書かれたのほりを押して立てていたことも興味深い。江戸時代は、度重なる大飢饉に襲われました。享保の飢饉（1732～33）、天明の飢饉（1782～86）、天保の飢饉（1833

～39）が「近世の三大飢饉」。飢饉に見舞われた地方では多数の餓死者を生じました。当然、一揆が多発しています。その中の乱です。「お奉行の名さえ知らずに年の暮れ」～腰掛けのつもりで江戸からやってくる城代や奉行たちに、大坂町民はもうウンザリ。昔も今も、大坂（大阪）の人間は時の政権に抵抗した平八郎に喝采を送りつづけているのです。

## 〈入会説明会のご案内〉

### 令和2年度11～12月

月日	時間	場所
11月4日(水)	13時30分～	豊里交流センター 2階 中会議室
11月12日(木)	13時30分～	大穂庁舎 3階 シルバー会議室
12月10日(木)	13時30分～	大穂庁舎 3階 シルバー会議室

#### 表紙の説明

長梅雨と猛暑をくぐり抜けて、九月初旬に稲刈りを待つばかりの稲穂。